

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞

パパ達ので練馬を日本一の子育て地域に

東京都練馬区 ねりパパ

1. ねりパパの発足

当団体代表の森が練馬区に引っ越して来た際、地域にパパ友を作りたいという思いから2010年に練馬区内の子育て支援ボランティア団体の総会に参加。その際、同総会に参加していたNPO法人の代表の話から『父親支援は少子化対策など日本の問題でもある』ということに気づく。そして、この練馬の地で父親の育児および地域を支援する活動をしたいとの思いから、その場にいた他のパパにも声をかけ、現役パパの任意団体である「練馬イクメンパパプロジェクト（通称：ねりパパ）」を結成。さらに同総会に参加していた家庭支援センター所長から「当該センターが開設している施設でパパのイベントを

月1回お願いしたい」との打診があり、ねりパパ活動を開始。

メンバーの年齢層は30〜60代であり、あだ名で呼び合うとともに、敬語の使用は基本的に禁止とすることで、年齢差に関係なく自由に話し合える雰囲気を作り出している。

2. 主な活動

①児童館等における絵本読み聞かせライブ、バルーンイベント

ねりパパの基幹活動であり、父親ならではの絵本の選択、および読み聞かせ方法が好評となり、10年が経過した現在も継続中（3月以降はコロナの影響で中断中）。また練馬こども祭り、ねりま子育てメッセ、地区祭等



結成10周年を迎えメンバーは総勢100名以上!!



の区内のイベントにおいても絵本ライブやバーンイベントを継続的に実施中。

②練馬区等のイクメン講座

2011年より練馬区教育委員会のイクメン講座を委託し、父親のスキルアップを促進する講座を開催（例：パパの絵本読み聞かせ講座、バーンアート講座、家事のシェアリング講座など）。また心理カウンセラーを招き、子どものころに関する父親向け講座を2019年に開催。

③ネリマックスプロジェクト

2012年に育児・育自・育地をモチーフにしたイクメンヒーローとして誕生。子育ての最大の敵ムカンシン（無関心）帝国に立ち向かう等、ユニークかつバラエティ豊かな活動を実施することにより、子どもたちは元よ



ねりパパの基幹活動である絵本の読み聞かせ

り現役子育て世代や子育て関係者をつなぎ、地域交流の発展に大きく貢献。活動拠点は練馬区内の児童養護施設を中心に幅広く、ネリマックスを中心としたショーは子どもたちにも好評であり、近年は近郊地域のヒーローとも活動中。

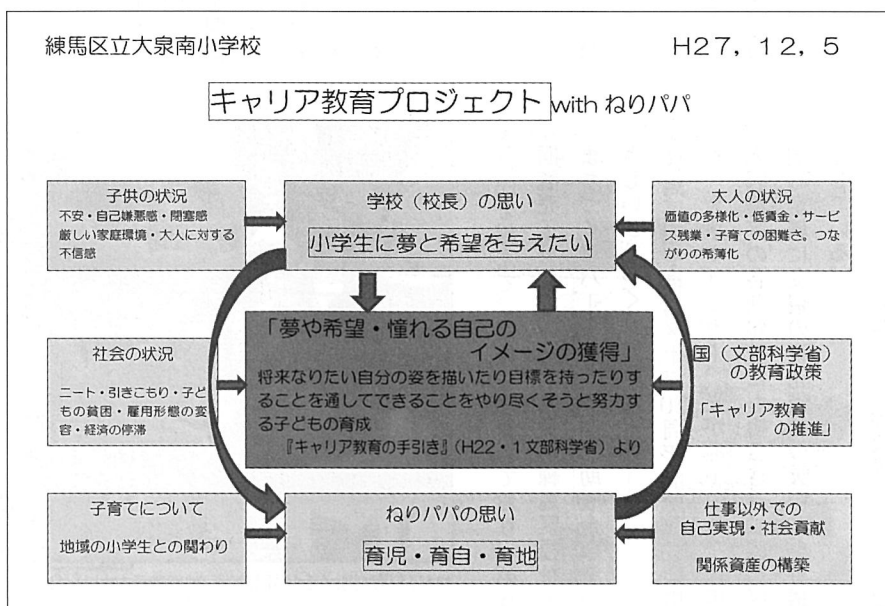
④パパとママの準備教室

2013年より区内の保健所からの依頼により、「パパとママの準備教室」にて先輩パパの体験談として自らの体験談を参加者に語ることで、父親の『パパスイッチ』をオンにするとともに、父親の育児に対する意識向上に寄与。開始3年後には先輩パパの体験談を区内のより多くのプレパパの皆さんと共有すべく、練馬区による父親向け育児応援動画の作製に協力し、当該動画は練馬区のホームページに掲載中。なお動画の作製をもって当該活動は終了。

⑤自主上映会プロジェクト

（後援：練馬区教育委員会等）

ねりパパのオレンジリボン活動の一環として、また地域の人々にいのちの尊さを改めて認識して頂きたいの思いから、映画「うまれる」の自主上映会を2015年に実施し、400名以上の方々に鑑賞頂く。また2018年には一つの生命を地域で育む練馬



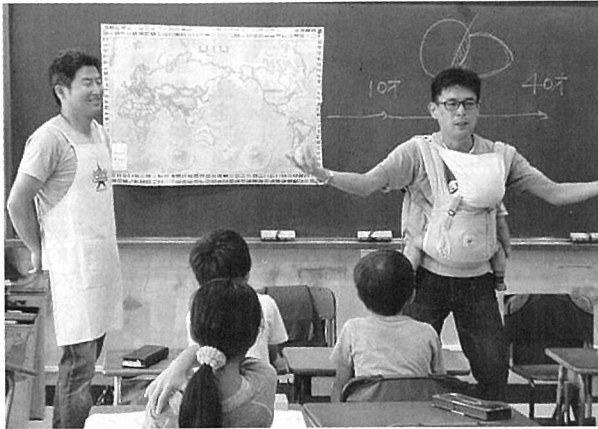
にしたいたいの思いから第2弾となる映画「みんなの学校」の自主上映会を実施。区外からも鑑賞申し込みがあり、合計300名近くの方々に鑑賞頂く。また上映会後には同小学校の2代目の校長先生による講演会を実施し、映画のみでは語り尽くせない裏舞台の部分な

などを講演頂き、本上映会の模様は「COMチャネル」でも放映される。

⑥小学校高学年を対象としたキャリア教育講座
ねりパパ代表の子どもたちが在籍する小学校にて2013年から開始。その後、小学校の正式なカリキュラムに採用され、現在年間12回授業を実施。

⑦PTAプロジェクト

PTA活動に興味のあるメンバー及びPTA、おやじの会等の現役役員や経験者が連携することにより、PTA活動に関する知識、経験、ノウハウを共有し、その活動の意義を高く意識付けることにより、現役PTA役員



現役パパによる小学校でのキャリア教育講座

への参画を積極的に図ることを目的として開始。これまでに10名のメンバーがPTA会長および副会長に関わる。また保育園および幼稚園の父母会等の会長の経験者も複数在籍している。

⑧ねりPapa Kidsプロジェクト

メンバーとその子どもたちがチームとなり、絵本ライブ、歌、バルーン等を児童館や地域のお祭り等で行うことにより、子どもたちの地域への愛着心を育むとともに次世代との連携の強化を図っている。また年1回の頻度でパパと子どもたちだけのキャンプを開催しており、他のパパ達とのコミュニケーションから子どもたちの自己肯定感を育むとともに、普段接しない同世代の子どもたちとの触れ合いを通じて、柔軟性や適応力の向上が図られている。

3. 主な成果

- ①2010年結成から10年経過。現在、代表、共同代表、副代表8名、執行役員3名、監事2名を始め、ねりパパメンバーは、総勢100名を超え、父親をつなげている。
- ②練馬区内の児童館等施設10拠点と連携した活動を主に実施しており、年間活動回数は、100回を超え練馬区全域を父親の力で活性化させている。



ねりパパが掲げる4番目の「育次」であるねりPapa Kidsたち

- ③官民を越えて、外部評価されており、第6回読売子育て応援団奨励賞、練馬区福祉のまちづくりパートナーシップ助成金事業やさしいまちづくり大賞を受賞。
- ④練馬区報や練馬区生誕70周年記念誌、練馬本、大泉ウォーカー、光が丘ima、練馬人図鑑等の各種雑誌にも掲載され、練馬区内の全域に父親の育児支援の大切さを浸透させている。

(ねりPapa副代表 芥川正明)